

# 息弾ませ駆け抜ける

## 2015八幡市民マラソン大会



スタートを切るランナーたち

「2015八幡市民マラソン大会」が12月6日、八幡市民スポーツ公園を発着点に開催され、市内外から集まった1612人のランナーが八幡のまちを駆け抜けました。

同大会は、市や体育協会などで構成される八幡市民マラソン大会実行委員会が毎年主催。ハーフマラソンや10km、3km、2kmの距離で、性別、年齢ごとに15部門が設けられました。

スタートラインに立ったランナーたちは、号砲とともに勢いよくスタート。木津川沿いや内里の田園地帯、上津屋の工業団地などを通るコースを、白い息を弾ませながら走り抜きました。



手をつないでゴールする親子部門のランナーたち

ゴール地点では、笑顔を見せたり、両手をあげたりしながら、ランナーたちが続々とゴール。日ごろの練習の成果を発揮できた達成感に、ランナーたちは充実した表情を浮かべていました。

発案した「竹つきリレー」を市長と体験する子ども委員たち



## 竹を使った運動会種目など 子どもたちが市長に提言

子どもならではの視点でよりよいまちづくりを考える「八幡市子ども会議」の委員が12月19日、松花堂美術館で取りまとめた案を堀口市長に提言しました。

同会議は、立命館大学政策科学部稲葉ゼミと連携して毎年行われており、今回で12回目。市内の小中高生32人の同委員が4班に分かれ、各班で決めたテーマに沿って7回の調査や協議などを行い、提言内容を取りまとめました。

八幡の竹に着目した小学生班は、縦に割った竹の上でボ

ールを転がし、みんなで受け渡していく「竹つきリレー」を提言。運動会の種目に取り入れることで八幡独自の競技になるとともに、放置竹林の活用や問題意識の向上にもつながると訴えていました。

ほかにも、市の特産品を使った料理の創作など、さまざまな案が提言されました。

くすのき小6年の八頭司陸斗くん(12)は「他の学校の人や大学生と取り組めて楽しかったです。市長に直接伝えられたのも、とてもいい経験になりました」と話していました。

# まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 阪口選手 駅伝入賞に貢献

12月20日に京都市で開催された男子第66回全国高等学校駅伝競走大会に、洛南高等学校3年の阪口竜平選手(男山第三中学校出身)が出場して都大路を駆け抜け、チームの6位入賞に貢献しました。

最長区間10kmの1区を任せられた阪口選手。夏合宿で長距離にも対応できるようにフォームを改造した成果も現れ、先頭集団をしっかりと視界にとらえながらレースを進めました。

大会を終えて、阪口選手は先輩が記録した京都高校記録を塗り替え、入賞することができてよかったです。今後は大学の三大駅伝での三冠を目指して頑張りたいです」と充実した表情で話していました。



都大路を走る阪口竜平選手(右から2人目)

## ピオトープ池 完成

男山東中学校が今年で創立30周年を迎え、それを記念したピオトープ池が完成し、11月28日に生徒や関係者らを招いてお披露目式が行われました。

ピオトープ池は、創立30周年記念の環境整備事業として、生徒の憩いの場や観察学習の教材などにしておうと、男山東中学校校区学校支援地域本部や新名神高速道路の建設に携わる企業などの協力を得て作られました。

## 男山東中学 創立30周年

形は淀川水系域の水源である琵琶湖をイメージ。3年生も池の縁を石で囲む作業に参加し、深さ約0.4m、全周約15mのピオトープ池が完成しました。

同式では、生徒会長の須田愛理さんが協力関係者らへの感謝とともに「これからの後輩たちにいつまでも受け継いでいきたいと思います」とあいさつ。愛称は生徒から募集し、「池ちゃん」に決定したと発表されました。

また、生徒らが太谷川などで捕獲した約20種の稚魚などの放流も行われ、ピオトープ池の完成を盛大にお祝いしていました。



ピオトープ池に稚魚などを放流する生徒ら